

## 扇 II

亡くしたものを また そこへかへすことは  
亡くした心を失ふことだ  
わざとしたあやまりを わざと直すことは  
よいこととは言へないやうだ  
約束したものの空しさを知つてゐるためにと  
言ひくらしめて あてにしないことも  
約束の満たされない悲しみの美しさを  
そこなつてしまふことだ  
智慧なくして置かれた一本の扇にも  
私はとりかへしのつかないあやまちを思ふ  
もえるのならばもえるがよい  
そのままにしづかに保ちながら  
自分といふものをするどくみがくがよい  
それにつけても  
あれは  
風に飛び  
音たてて  
流れの暗に入った賢き扇  
紅うすくつき  
夜毎の舞ひにお前の手に生きた  
賢き扇  
もえるのならばもえるがよい